

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	山形大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヤマガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F106110101176
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	山形県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	フィールドワーカー 山形の企業の魅力(プレインターンシップ)
	学部・研究科等名	学術研究院(学士課程基盤教育院)
	担当教職員名・役職	松坂暢浩・教授、山本美奈子・准教授
	受講者数実績年度	令和4年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	44
	受入企業等数	31
	受入企業等名	(株)曙印刷、(株)アサヒマーケティング、(株)ARROWS、(株)エム・エス・アイ、(株)大久保硝子店、大場印刷(株)、(株)カーサービス山形、(株)菊池技建、(有)グッピー園、斎藤マシン工業(株)、(有)笹木製作所、(株)サニックス、田宮印刷(株)、(株)ティスコ運輸、(有)長門屋、ハンズバリュー(株)、山形県中小企業家同友会、西道精工(株)、(株)E旅、(株)マルタニ、(株)菓子工房COCOイズミヤ、城北電気工事(株)、(株)セントラルリース、寒河江物流(株)、(株)浅倉工業、(株)リプライ、(株)メコム、(株)セルヴァン、(株)半澤鶏卵、(株)たかき ※五十音順、敬称略
	産学協議会の整理上の類型	2.タイプ2(キャリア教育)
キャリア形成支援活動の分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)を対象としたキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動	
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっています	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	・本インターンシップにおける就業体験は、通常業務を体験するプログラムである。 ・プログラム開発作成にあたっては、本学と山形県中小企業家同友会が協働で開発した「プログラム・フォーマット」を活用している。受入企業のインターンシップ担当社員は、就業体験内容や指導方法、スケジュールなど実習計画を作成している。また、プログラム作成にあたっては、上司からサポートだけでなく、山形県中小企業家同友会事務局の担当者や授業担当の教員も連携しサポートを行っている。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われて	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	1.当該キャリア形成支援活動は、教養教育科目として実施している 2.当該キャリア形成支援活動は、キャリア教育科目として実施している 5.当該キャリア形成支援活動は、選択必修科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部1年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	・本インターンシップは、本学の体系的な「キャリア教育」の1つとして位置づけている。履修学生には、他の「キャリアデザイン科目」の授業を併せて履修してもらうことで、教育的効果がさらに高まるようにしている。

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	・インターンシップ期間中は、学生が入力する実習日誌(オンライン形式)を毎日教員がモニタリングしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	・4月から7月までの期間に、履歴書の作成、ビジネスマナー講座、中小企業家同友会の経営者による講演、受入先の企業研究を行っている。 ・担当する2名の教員が履修学生全員と個別面談の実施している。また、ピアメンター(以前の履修学生)が自身の体験を踏まえて学生のサポートを行い、学生のインターンシップ参加目的および目標の明確化や不安の軽減を図っている。 ・学生の事前学習の充実と円滑なインターンシップの参加をサポートするために、独自に作成した学生用「インターンシップ・マニュアル(チェックリスト)」を活用している。内容は、参加前の準備、事前訪問やインターンシップ中の注意点、基本的なマナーなどをチェックシート形式で学生自身が確認できるようにしている。 ・本インターンシップを体系的な「キャリア教育」の1つとして位置づけ、キャリア教育科目の授業を併せて履修させる形を取っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	・受入企業に参加いただく成果報告会(オンライン)を実施している。 ・学生が成果報告会で発表する内容は、学生の学びを深めるために項目を統一している。具体的には、①実習内容、②個人目標の達成度、③中小企業に対するイメージ変化の有無、④働く意味、⑤中小企業の魅力、⑥インターンシップでの学びを大学生活でどのように生かしていくか、の6点である。 ・また、成果報告会の準備には、教員とピアメンターが関わり、学生の気づきや学びが深まるようにサポートしている。 ・成果報告会には、受入企業の経営者および指導担当の社員に参加してもらう。学生の成果発表に対して受入企業からフィードバックが行われ、インターンシップにおける学びの定着を図っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	・インターンシップ期間中は、学生が実習日誌(オンライン)を入力した内容を毎日、教員がチェックし、モニタリングしている。また、教員が学生に対して、記入内容のフィードバックを行い、受入企業にも学生の状況を共有している。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、キャリア形成支援活動の実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	・インターンシップ参加前後にアンケート調査を実施し、本インターンシップの到達目標を踏まえた教育的効果の検証を行っている。具体的には、キャリア意識(CAVT)と社会人基礎力の事前事後の変化について定量的に分析を行っている。また、学生がインターンシップ参加を通して得た「働く意味」と「中小企業の魅力」の自由記述(400文字程度)を質的に分析している。

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	事前訪問1日、インターンシップ3日、事後学習(成果報告)1日 ※事前学習は、15回の授業内で実施。
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	本授業は、2年次以降に中長期インターンシップ参加する前のプレ体験と位置付けいるため、就業体験の実施期間を事前・事後学習を合わせて5日間以上としている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本インターンシップは、本学と連携協力協定を締結している山形県中小企業家同友会と連携して取り組んでいる。</li> <li>・本インターンシップの受入にあたり、担当教員がインターンシップ受入窓口となる委員会の会議に参加し、教育目的の共有を行っている。</li> <li>・本インターンシップ受入企業の選定については、担当教員と山形県中小企業家同友会事務局が協働で行っている。</li> <li>・本インターンシップの事前・事後学習には、受入企業に関与してもらっている。特に、事後学習の成果報告会には、受入企業の全社が参加している。</li> <li>・本インターンシップ担当教員と山形県中小企業家同友会事務局とが協働で受入企業に対するアンケート調査を実施している。実施後に、集計・分析成果の報告と課題について共有した上で、次年度に向けた改善に取り組んでいる。</li> </ul>
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の特徴的なインターンシップ <a href="https://www.yamagata-u.ac.jp/ip/employment/intern/original/">https://www.yamagata-u.ac.jp/ip/employment/intern/original/</a></li> <li>・シラバス <a href="https://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/syllabus/2023/html/G1_78579.html">https://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/syllabus/2023/html/G1_78579.html</a></li> </ul>
問い合わせ先	大学等名	山形大学
	担当部署名	キャリアサポートセンター
	担当者役職名	センター長
	担当者氏名	松坂暢浩
	電話番号	023-328-4899
	メールアドレス	n-matsuzaka@im.ki.yamagata-u.ac.jp